

# 世界史 B

(4 問題 100 点)

I

世界史 B 問題

(20 点)

16 世紀，ヨーロッパ人宣教師による中国へのキリスト教布教が活発化した。  
この時期にヨーロッパ人宣教師が中国に来るに至った背景，および 16 世紀から  
18 世紀における彼らの中国での活動とその影響について，300 字以内で説明せ  
よ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

## Ⅱ 世界史B問題

(30点)

次の文章(A, B)を読み,  の中に最も適切な語句を入れ, 下線部(1)~(10)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 関中盆地は, 中原から見れば西に偏しているが, 遊牧世界と農耕世界が接するユニークな位置にあった。紀元前4世紀半ばに盆地の中央部, 渭水北岸の  a  に都を置いた秦は, 他国出身者を積極的に登用して富国強兵政策を<sup>(1)</sup>断行し, 中央集権的な国家体制を指向して, 急速に国力を高めていった。また秦は, 早くから騎乗戦術を導入したが, これは騎馬遊牧民との接触・交戦を通じて獲得したものとされる。始皇帝<sup>(2)</sup>による天下統一は, こうした基礎の上に成し遂げられた。<sup>(3)</sup>

始皇帝の没後, 各地で反乱が起こったが, この混乱を収めてふたたび天下を統一した漢は,<sup>(4)</sup> 新たに長安に都を定めた。武帝の時, 漢は匈奴を撃退し, その勢力を西域にまで広げ, 長安は東西交易でも栄えた。 a  とは渭水をはさんだ対岸に位置するこの都は,<sup>(5)</sup> 王莽の時代には「常安」と名を改めた。王莽は, 儒教<sup>(6)</sup>の理念に基づいた国制の実現を試みたが, 急激な改革は大きな混乱を招いた。紀元後18年に起こった  b  の乱を契機に, 各地で農民や豪族の反乱が起こり, 王莽は敗死, 常安も戦乱により荒廃した。

後漢が  c  に都を置いて以後, 長安が政治の中心となることはほとんどなかった。この都市がふたたび政治史の舞台となるのは, 4世紀半ばのことである。氏族がたてた前秦が長安を都とし, 華北統一を達成したのである。しかし, 苻堅がいだいた中華統一のもくろみは, 淝水の戦い<sup>(7)</sup>に敗れたことにより敗えなく潰えた。前秦の滅亡後, 長安には, 羌族のたてた後秦<sup>(8)</sup>も都を置いた。

その後, 華北は北魏によって統一されたが, 6世紀前半,  c  から逃れてきた孝武帝を武将の宇文泰が長安に迎えたことが契機となって, 北魏は東西に分裂した。宇文泰は西魏の皇帝を奉じつつ, 事実上の統治者として国力の充実に努めた。彼の死後, 禅譲によって成立した北周も長安を都とした。北周<sup>(9)</sup>の武帝は, 対立していた北斉を滅ぼして華北を統一したが, その直後に急死<sup>(10)</sup>

し、程なく皇帝の位は外戚の楊堅へと移る。

北周を滅ぼした楊堅は、前漢以来の長安城の一隅で即位するが、その直後に新都造営を命じた。 d と命名されたこの都城は、旧都の南東に位置する台地上に建設された。この都こそ、平城京・平安京の範となったものである。

## 問

- (1) 前4世紀、他国から秦に移り、孝公の信任を得て法家思想に基づく政治改革を行った人物の名を答えよ。
- (2) 古代ギリシアの歴史家ヘロドトスは、黒海北岸を中心とする地域に遊牧国家を形成した騎馬遊牧民のことを記録に残している。特有の動物文様をもつ金属工芸品や馬具・武具などの出土遺物で知られるこの騎馬遊牧民は、何と呼ばれているか。その呼称を答えよ。
- (3) 始皇帝は天下を統一すると、秦の貨幣を全国に普及させるよう命じた。この貨幣の名称を答えよ。
- (4) これらの反乱勢力のリーダーのうち、漢をたてた劉邦と覇を競った、楚国出身の人物の名を答えよ。
- (5) 中央アジアの大月氏との連携を求め、武帝が使者として西域に派遣した人物の名を答えよ。
- (6) 後漢時代、儒教經典の字句解釈についての学問が発達した。この学問は何と呼ばれているか。その呼称を答えよ。
- (7) 383年、この戦いで前秦を破った王朝は何と呼ばれているか。その呼称を答えよ。
- (8) 後秦のとき「國師」として長安に迎えられ多くの仏典を漢訳した、中央アジア出身の人物の名を、漢字で答えよ。
- (9) 宇文泰が創始した兵制で、のち隋唐王朝でも採用された制度は何か。その名称を答えよ。

- (10) 北周の武帝は、北斉を滅ぼしたのち、北方の遊牧勢力への遠征を企図していた。6世紀半ばに柔然を滅ぼしてモンゴル高原の覇者となり、北周・北斉にも強い影響力をもったこの遊牧勢力は、中国史書には何と記されているか。その名称を漢字で答えよ。
- (11) 「外戚」とは何か。簡潔に説明せよ。

B 西アジアとその隣接地域は歴史上様々な人間集団が活動した空間であり、ここでは外来の文化と現地のそれが融合し、新たな文化が形成されることもあった。

紀元前4世紀後半、アレクサンドロス大王は東方遠征<sup>(12)</sup>を行って、ギリシア、および、エジプトからインド西北部に至る大帝国を建設した。彼の死後、その領土は3つの国へと分裂したが<sup>(13)</sup>、これらの地域ではギリシア的要素とオリエン<sup>(14)</sup>ト的要素の融合した文化が成立した。

のち、7世紀初頭には、アラビア半島のメッカでイスラーム教が誕生した。アラブ人ムスリムは、預言者ムハンマド<sup>(15)</sup>の死後まもなくカリフの指導のもと大規模な征服活動を開始し、1世紀余りの間に西はイベリア半島<sup>(16)</sup>、北アフリカから、東は中央アジア<sup>(17)</sup>に至る空間をその支配下に置いた。征服者の言語であり、聖典『コーラン』の言語でもあるアラビア語<sup>(18)</sup>は、やがて広大なイスラーム世界の共通語としての役割を担うようになる。

初期のムスリムは軍事活動にのみ熱心だったわけではない。ウマイヤ朝期に始まったギリシア学術の導入は、続くアッバース朝期に本格化し、9世紀にはバクダードに設立された研究機関<sup>(19)</sup>を中心に、ギリシア語の哲学・科学文献<sup>(20)</sup>が次々にアラビア語に翻訳された。これらギリシア語文献の翻訳に最も功績のあった人物の一人、フナイン＝イブン＝イスハークがネストリウス派キリスト<sup>(21)</sup>教徒であったことは、イスラーム文化の担い手が多様であったことを象徴する事実といえるだろう。また、アッバース朝期にはイスラーム世界固有の学問も発展した。これには法学、神学、コーラン解釈学や歴史学<sup>(22)</sup>などが含まれる。こうして、外来の学術の成果も吸収しながらイスラーム世界の伝統的な学問の体系が形成されていった。

11 世紀後半以降イスラーム世界各地で盛んに建設された学院(マドラサ)<sup>(23)</sup>では、とくに法学や神学の教育が重視されたが、その「教科書」にあたる文献の多くはアラビア語で著されていた。イスラーム世界の東部では 9 世紀半ばまでには近世ペルシア語が、そして、15 世紀末までにはチャガタイ語やオスマン語<sup>(24)</sup>といった各地のトルコ語も文語として成立していたが、それ以降の時期にあってもアラビア語は変わらず学術上の共通語であり続けた。19 世紀後半以降、イスラーム世界各地にイスラーム改革思想が広まるが、その伝播にあたってはアラビア語の雑誌も大きく貢献したのである。<sup>(25)</sup>

## 問

- (12) 紀元前 333 年に、アレクサンドロスがペルシア軍を破った戦いの名を答えよ。
- (13) この時期、エジプトのアレクサンドリアには自然科学や人文科学を研究する王立の研究所が設立された。この施設の呼び名をカタカナで答えよ。
- (14) この文化は何と呼ばれているか。
- (15) 622 年、ムハンマドは信者とともにメッカからメディナへと移動した。この事件をアラビア語で何と呼ぶか。
- (16) この地に進出したムスリム軍が 711 年に滅ぼしたゲルマン人の王国の名称を答えよ。
- (17) この地に進出したムスリム軍は 751 年、唐の軍と交戦して勝利した。製紙法の伝播をもたらしたともされる、この戦いの名称を答えよ。
- (18) この言語と同じ語族・語派に属し、紀元前 1200 年頃からダマスクスを中心に内陸交易で活躍した人々が使用した言語の名称を答えよ。
- (19) アッバース朝のカリフ、マームーンが創設したこの翻訳・研究機関の名称を答えよ。
- (20) アラビア語に翻訳された古代ギリシアの文献は、のち 12 世紀以降、ラテン語に翻訳されてヨーロッパに逆輸入された。このとき、アラビア語からラテン語への翻訳作業の中心地となったスペインの都市の名を答えよ。

- (21) ネストリウス派は唐にも伝わった。唐でのネストリウス派の呼称を答えよ。
- (22) アッバース朝期に活躍し、天地創造以来の人類史である『預言者たちと諸王の歴史』を著した歴史家の名を答えよ。
- (23) マドラサやモスクの運営を経済的に支援した、イスラーム世界に特徴的な寄進制度をアラビア語で何と呼ぶか。
- (24) アラビア文字を採用し、アラビア語の語彙を大量に取り入れることで成立した近世ペルシア語の最初期の文芸活動の舞台は、9世紀から10世紀にかけて中央アジアを支配した王朝の宮廷であった。この王朝の名称を答えよ。
- (25) ティムール朝王族で、ムガル帝国の初代皇帝となった人物はチャガタイ＝トルコ語で回想録を著している。歴史資料としても名高い、この回想録のタイトルを答えよ。
- (26) イスラーム世界各地のみならずヨーロッパでも活動し、パン＝イスラーム主義を提唱して、1884年にパリでムハンマド＝アブドゥフとアラビア語雑誌『固き絆』を刊行した思想家の名を答えよ。

Ⅲ 世界史B問題

(20点)

1871年のドイツ統一に至る過程を、プロイセンとオーストリアに着目し、1815年を起点として300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

## IV

## 世界史B問題

(30点)

次の文章(A, B)を読み、の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)~(24)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A 古代ギリシア人は、独自の都市国家であるポリスを形成し発展させた。ギリシア本土やエーゲ海周辺に数多く誕生したポリスは、同盟(連邦)を形成することはあっても、ひとつの領域国家に統一されることはなかった。前5世紀中頃のアテネのペリクレスの市民権法のように、市民団の閉鎖性を強めたこともあった。一方で、古代ギリシア人は自らをヘレネスと呼び、出自や言語、宗教、生活習慣を共有する者としての一体感を有していた。そして、異民族を「聞き苦しい言葉を話す者」という意味でバルバロイと呼んで区別した。やがてこのバルバロイには、アテネの帝国的発展とペロポネソス戦争の苦難の経験を通じて、他者への蔑視など否定的な意味がまとわりつくようになる。

古代ギリシア人とともに高度な文明を築いたことで知られるローマ人は、集団の定義や自己理解の点ではギリシア人と異なっていた。ローマ人の歴史は、イタリア半島に南下した古代イタリア人の一派が半島中部に建てた都市国家ローマに始まる。しかし、ローマ人は国家の拡張の過程で、都市ローマの正式構成員の権利であるローマ市民権を他の都市の住民などにも授与し、市民団を拡大していった。前1世紀の初めにはイタリアの自由人にローマ市民権が与えられ、イタリアの外の直接支配領である属州でも、先住者へローマ市民権が付与されたので、市民権保持者の数は急速に増加した。こうして、ローマ市民権を保持する者としての「ローマ人」は、故地である都市ローマやイタリアを離れて普遍化していったのである。

また、故地ローマ市を抽象化し、「ローマ」という名称に普遍的な意義を見出そうとする思想は、その後長く影響力を有し、とくにローマの支配の正統性やその賞賛をとまなう帝国理念となって展開した。そうした考え方は初代皇帝アウグストゥスを内乱からの秩序の回復者としてたたえることから始まっている。ローマ市そのものは、3世紀の  a  時代と呼ばれる帝国の危機の時



代を経て首都としての役割が低下し、人口も減少していったが、帝国東部の拠点都市コンスタンティノーブルが4世紀の終わり頃から首都的機能<sup>(10)</sup>を果たすようになると、これが「新しいローマ」とみなされるようになった。

コンスタンティノーブルは、ローマ帝国を帝国領東部で継承したビザンツ帝国の首都として存続した。ビザンツ帝国では、共通語がギリシア語になってからも皇帝は「ローマ人の皇帝」を称していた。コンスタンティノーブルはオスマン<sup>(11)</sup>帝国の攻撃によって陥落したが、この頃台頭してきたロシアのモスクワ大公国<sup>(12)</sup>において、ビザンツ帝国最後の皇帝の姪と結婚していた大公イヴァン3世がラテン語の「カエサル」に起源を持つ b の称号を初めて用いた。この後、モスクワを「第三のローマ」とみなす思想が形成されていったのである。<sup>(13)</sup>

#### 問

- (1) 数あるポリスの中でもスパルタは、近隣地域を征服してその住民を隷属農民として支配した。この隷属状態に置かれた先住民は何と呼ばれたか。その名称を記せ。
- (2) この法律の内容を簡潔に説明せよ。
- (3) 古代ギリシア人が最高神ゼウスの聖域で4年ごとに開催した民族的な行事の名を記せ。
- (4) アテネはペルシア戦争後に結成した、諸ポリスをとりまとめた組織によって他のポリスを支配した。その組織の名を記せ。
- (5) ペロポネソス戦争の経過を描いた歴史家の名を記せ。
- (6) ローマと条約を結び、兵力供出の義務を負いながらもローマ市民権を与えられない地位に置かれた都市は何と呼ばれたか。その呼称を記せ。
- (7) ローマがイタリアの外に初めて直接的な管轄地域(属州)としてシチリア島を得ることになった出来事の名を記せ。
- (8) 小アジアのユダヤ人の家庭の出身で、ローマ市民権を持ち、伝道旅行を重ねてキリスト教が普遍的な宗教となることに大きな貢献をした人物の名を記せ。

- (9) 内乱を収束させたアウグストゥスは共和政の復興を宣言したが、実際には新しい政治体制を創始したのであった。彼の始めた政治体制は何と呼ばれるか。その名称を記せ。
- (10) コンスタンティノーブルがローマ帝国の首都的機能を備えるようになったのは、4世紀末のテオドシウス1世(大帝)の時からである。この皇帝が行った宗教政策で、その後の欧州に強い影響を与えたものを簡潔に記せ。
- (11) 5世紀から6世紀にかけて戦場に赴くことが少なかったビザンツ皇帝が、6世紀後半になると親征することが多くなったのは、東で接する国家と抗争することになったからである。ビザンツ帝国と争ったこの国家の名を記せ。
- (12) コンスタンティノーブルが陥落してビザンツ帝国が滅亡したのとほぼ同じ頃に西ヨーロッパで生じた出来事を、次の(a)~(d)からひとつ選んで、その記号を記せ。
- (a) ドイツ王ハインリヒ4世が教皇グレゴリウス7世に赦免をこうた。
- (b) ウルバヌス2世がクレルモンの公会議で十字軍を提唱した。
- (c) イングランド軍がカレーを除いて全面撤退し、英仏間の百年戦争が終了した。
- (d) ローマとアヴィニョンに教皇がたつ教会大分裂の状態に陥った。
- (13) ローマ皇帝とその帝国の理念は、西ヨーロッパでも継承され、キリスト教世界の統治と教会の保護が任務とされたが、962年に神聖ローマ皇帝としてその役割を担うことになった国王の名を記せ。

B 人類史上、動物が果たした役割、そして動物が被った影響は、非常に大きい。

西洋では、中世の支配層は、馬を大規模に飼育していた。海や船と結びつけられがちな<sup>(14)</sup>ヴァイキングも、馬を戦争や運搬に利用した。また、イベリア半島<sup>(15)</sup>などでは、牛や羊が土地を疲弊させるほどに過放牧された。牧畜の隆盛は耕地面積を圧迫し、そのために中世ヨーロッパでは慢性的に食糧が不足していたと<sup>(16)</sup>いう見方もある。15世紀末以降、新世界では、ヨーロッパ人は船に載せて持ち込んだ馬を駆って征服を進め、<sup>(17)</sup>獲得した土地で、ヨーロッパから輸入した牛

や羊や豚を大規模に飼育した。これに伴い、先住民はヨーロッパ人や動物がもたらした病気に罹患したり、暴力や経済的な搾取を受けて、大幅に人口を減らすことになった。<sup>(18)</sup>

北米大陸の大平原に広範囲に生息していたパイソンは、白人、そして馬と銃を使いこなすようになった先住民によって、19世紀末までに、ほとんど狩りつくされていく。そして、先住民が c に強制的に移住させられる一方で、白人の牧畜業者は畜牛の放牧地を経営することになる。南米大陸でも放牧地は拡大し、生産された畜牛は、たとえば、世界の工場として経済的繁栄を享受していたイギリスなどに、生きたまま、船に載せられて輸出され、到着後に業者の手に引き渡された。<sup>(20)</sup> これは、その100年前に隆盛を極めていた、アフリカの黒人を新大陸に運ぶ奴隷貿易と同様に、苦痛を与えるとして非難された。<sup>(21)</sup>

西洋人は動物の毛皮も欲した。北米大陸に生息するビーバーの毛皮は、近世から紳士用帽子の材料として人気を集めた。ビーバーを追って内陸への進出が果たされた側面もある。他方で、ロシアからもたらされる、シベリア産のクロテンなどの毛皮のほか、太平洋沿岸に生息するラッコの毛皮も、人気の商品であった。<sup>(22)</sup> 19世紀にはダチョウの羽根が西洋の婦人用帽子の装飾として珍重された。太平洋の島々に生息するアホウドリの羽根も同じ用途で高い需要があり、これに目を付けた日本の業者によって乱獲された。

19世紀には、象もインドやアフリカで大規模な狩猟の対象となった。トランスヴァール共和国では、金やダイヤモンドが発見されるまでは、象牙が最大の輸出品であった。<sup>(23)</sup> 象牙はナイフの柄やビリヤードのボールやピアノの鍵盤などに加工されるのであった。1900年の年間だけでヨーロッパは380トンの象牙を輸入したが、これは約4万頭の象の殺戮を意味した。捕鯨も19世紀に「黄金時代」を迎えた。それを牽引したアメリカ合衆国は、19世紀半ばの最盛期に、世界の捕鯨船約900隻のうち735隻を擁したとされる。1853年、同国の捕鯨船団は8000頭以上の鯨をとった。主たる目的は鯨油とヒゲで、肉は廃棄された。<sup>(24)</sup>

問

- (14) 1000年頃からしばらく続く西ヨーロッパの内外に向けての拡大運動においても馬は活躍した。
- (ア) この頃の修道院を中心とした経済的かつ領域的な拡大の運動を何と呼ぶか。
- (イ) この運動の先頭に立った主な修道会の名をひとつ答えよ。
- (15) フランス北部のバイユーで制作された刺繍画<sup>ししゅう</sup>には船と並んで馬が頻出する。この刺繍画の主題である1066年のヘイスティングズの戦いでクライマックスを迎える出来事を何というか。
- (16) とりわけ中世後期は疫病や飢饉<sup>ききん</sup>などが頻発し、社会的な不安が高まったのだが、黒死病の大流行以降、人口減少により農奴に対する束縛は緩められる傾向が顕著であった。このとき社会的上昇を果たした独立自営農民のことをイギリスでは何と呼ぶか。
- (17) (ア) 16世紀前半に騎馬の兵を率いるコルテスによって滅ぼされた帝国の首都の名は何か。
- (イ) また、ここはその後何という都市になったか。
- (18) ラテンアメリカが産出した銀は、ヨーロッパだけでなくアジアにも輸出された。
- (ア) その積出地と、(イ) 銀を運んだ船の種類を答えよ。
- (19) 19世紀前半に、先住民の移住政策を推進したことや民主党の結成を促したことで知られるアメリカ合衆国大統領は誰か。
- (20) 19世紀末にこの輸送法は用いられなくなる。しかし、南米からイギリスなどへの牛肉の輸出は増加した。それが可能となった技術的理由を述べよ。
- (21) この奴隷貿易とは別に、アフリカ東海岸では長らく、インド洋貿易の一環としてムスリム商人が奴隷貿易を行っていた。アラビア語の影響を受けて成立し、17世紀以降この海岸地帯で共通語となった言語は何か。

- (22) この動物の毛皮は、アジアとアメリカ大陸の間に派遣された探検隊によって持ち帰られ、ロシアによる北太平洋の毛皮貿易が発展するきっかけとなった。シベリアとアラスカを隔てる海峡の名にもなっている探検隊のリーダーの名を記せ。
- (23) これらの産品への注目が南アフリカ戦争へつながった。この戦争に踏み切った当時のイギリス植民地相の名を答えよ。
- (24) これを題材にした小説『白鯨(モビーディック)』の作者は誰か。

世界史B問題は、このページで終わりである。